

平成 30 年度 第 3 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会 議事録

- | | |
|-------|---|
| ■日 | 時：平成 30 年 12 月 13 日（木）18:15～20:15 |
| ■場 | 所：武蔵野総合体育館 3 階大会議室 |
| ■出席委員 | ：7 名（宮武、鶴川、鈴木、澁谷、平、川鍋、森安）
欠席 3 名（安達、熊田、村田）※敬称略 |
| ■事務局 | ：高齢者支援課、武蔵野市民社会福祉協議会 |

1 開会

委員長欠席のため、副委員長が議事進行。

2 配付資料確認

事務局より配付資料の説明。

3 概略説明

事務局より委員会概略の説明。

4 議事

(1)平成 31 年度事業計画採択面接

〈前半〉

- ①川路さんち
- ②くるみの木
- ③ふらっと・きたまち
- ④関三倶楽部

〈後半〉

- ⑤花時計
- ⑥そ～らの家
- ⑦きんもくせい
- ⑧月見路

以下、質疑応答

①川路さんち

【委員】11～12 月に新規利用者が 5、6 名増えたとのことだが、年齢はどのくらいか。

【川路さんち】ほとんどが 80 代半ばである。若くても 70 代後半。

【委員】認知症の人は増えているか。また、その方の対応はどうしているか。

【川路さんち】物忘れや来なければならない日に来ない等が 3 名程いる。そんなに

多くはないが、増えてきている。対応としては、安否確認を行っている。

【委員】今年度より光熱水費補助金を開始したが、その効果はどうか。

【川路さんち】とても助かっている。利用者の方のために購入できなかったものが買えるようになった。

【委員】囲碁等によって男性の利用者が増えてきたとのことだが、男性が増えることの相乗効果はあるか。

【川路さんち】お昼だけの利用だが、ゆっくり過ごしている人もいる。女性の中に男性が入ってくるのは活気が出て良いと思う。

【委員】その方は続けて来ているか。

【川路さんち】来ている。

【委員】要介護認定者の割合はどうか。

【川路さんち】算出していないが、「自立」の人も多い。把握できるだけで20名くらい。

【委員】認定を持っている人を把握しておいてほしい。

②くるみの木

【委員】くるみ学習室の内容で決まっているものがあれば教えてほしい。

【くるみの木】今後講師との打合せを行うので、内容はこれから検討する。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。

【くるみの木】最低賃金が上がったので助かっている。

【委員】要介護認定者の割合はどうか。

【くるみの木】登録時に自己申告制で1割くらいと把握している。認知症の利用者も数名おり、食事代をもらえないこともある。家族とは連絡をとっており、今後そういった方が増えることを予想して、スタッフ間で検討している。

【委員】登録者数は何名か。

【くるみの木】200名超。

【委員】困っていることや苦勞していることはあるか。

【くるみの木】認知症の方への対応の頻度が高くなったことや講師の高齢化が課題である。

③ふらっと・きたまち

【委員】以前、困りごとの支援をしたいと言っていたが、その後の経過はどうか。

【ふらっと・きたまち】「言ってみよう・聞いてみよう」という名の目安箱を設置しており、相談や要望を聴いている。記名のあるものには回答し、できることがあればスタッフや利用者で対応している。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。

【ふらっと・きたまち】繰越金があるので、なくてもよい。

【委員】食事以外の目的で来る人はいるか。

【ふらっと・きたまち】プログラムによって人数制限をかけているものもあるが、大体は食事とセットで来ている。今年度から開始した歌の会については人気のプログラムで、ボランティアに講師を頼んでいる。

【委員】スタッフ数が多いが、どのように捉えているか。

【ふらっと・きたまち】20～30名在籍しているが、スタッフが利用者になる場合もあるので、全体として上手く回している。

④関三倶楽部

【委員】ショートステイの利用者は何人か。

【関三倶楽部】リピーターがほとんどであり、6、7名。加えて緊急時の受入れもある。

【委員】要介護度はどのくらいか。

【関三倶楽部】最低で要介護3。ほとんどが全介助の要介護5の方である。

【委員】送迎時に家族の相談も受けているとのことだが、介護者支援をやる余地はあるのか。

【関三倶楽部】正直なところ難しい。相談受入れの時間を作ると、利用者を見られなくなってしまうので、送迎のときに家族にさりげなく利用者の様子を伝えている。他事業所が提供するデイサービスや訪問介護とは違い、関三倶楽部では24時間利用者と関わるので、ショートステイ時に良かったこと等を話すと家族が安心してくれる。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。

【関三倶楽部】助かっている。本当は就寝時の褥瘡防止対策のためにもう少し早くいただきたいかった。

【委員】（運営団体の）「特定非営利活動法人パーソナル・ケア吉祥寺」は介護保険事業から撤退したが、関三倶楽部のような融通の利くショートステイはとても重宝している。そういった今後のセーフティネットはどうすれば継続できるか。

【関三倶楽部】今後、関三倶楽部継続のための団体を作る可能性が全くないとは言えない。

⑤花時計

【委員】平成31年度より、こどもの広場を設けるとのことだが、参加見込みはどのくらいか。

【花時計】大体10名程度を予定。登録制でこれから募集を行う。

【委員】食事提供の対象は誰になるのか。

【花時計】現在は高齢者と乳幼児対象。その他、空きがあれば地域の方も利用できる。

【委員】子ども向け（食事ができない子どもが行く子ども食堂のようなイメージ）には行わないのか。

【花時計】衛生面等の問題もあり、現在は検討していない。

【委員】そういった場所が、今後子どもの居場所になるのではないのか。

【委員】小学生の担当は誰になるのか。

【花時計】2名ボランティアが決まっており、1名は元教師、もう1名は経験豊富な男性。スタッフはその補助として対応する。

【委員】利用者は元気な人が多いのか。

【花時計】要支援1が1名、要介護1以上が15名。認知面で心配な方とは家族とも話をしている。登録時に自己申告をしてもらっている。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。また新たな用途はあるか。

【花時計】今年は修理費の支出が多かったのも、そちらに補填できた。

【委員】最近は産後うつなどの話題等も挙がるが、現代の母親と昔の母親との違いは何か。

【花時計】インターネット等を通じて知識はあるが、子育ての本質については変わりなく、周囲のサポートがなく赤ちゃんと2人きりの関係性で日中を過ごすのは大変という話を聞いている。利用者が花時計に来るときにスタッフが相談に乗っている。

【委員】情報の見すぎや知りすぎで、心配してしまう親がいるのでは。

【花時計】数件耳にはする。相談に応じる保健師によって対応にばらつきがあり、不安の増減が変わってくるという話を聞いている。

【委員】国は、「発達障害支援体制整備事業」を推進しているが、東京都は一度も研修会を行ったことがなく、今年初めて実施した。発達障害の相談をする前、した後の支援の場が東京都にはない。自閉症の子どもは対人コミュニケーションをうまく身に付けられれば、能力を発揮できるので、今後武蔵野市でも検討していただきたい。

⑥そ～らの家

【委員】子どもや障害者の参加率はどのくらいか。

【そ～らの家】わらべうたの会を月1回、東保育園と開催をしているが、現在子どもはそんなに参加はしていない。障害者も同じく。専門的なスタッフがいるわけではないが、要望があれば検討していきたい。

【委員】認知症に対する正しい認識や予防に関する知識を学ぶとあるが、認知症の利用者の事例はあるのか。

【そ〜らの家】そ〜らの家のスタッフは全員認知症サポーターなので、そういった事例があった場合、接し方を考えて行っている。

【委員】今回スタッフ体制を一新したとのことだが、代表になったときの心境の変化はあるか。

【そ〜らの家】まだおぼつかない面もあるが、キッチンスタッフを7年やってきたので、スタッフみんなで力を合わせて、支えてもらいながら、運営をしていきたいと考えている。

【委員】入浴サービスを利用している人はいるか。

【そ〜らの家】現在、利用者は少なくなった。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。

【そ〜らの家】助かっている。

【委員】近所の整形外科の先生を講師として呼ぶ体操のプログラムはどうなったのか。

【そ〜らの家】本業の整形外科が忙しくなり、講座がなくなった。機会があれば、また実施したい。

【委員】認知症の人も増えているか。

【そ〜らの家】何度も同じ話をする人等がいるが、認知症と決めつけず接している。利用者の誰が認知症かという把握はしていないが、以前に比べて様子が変わったと感じる利用者もいる。

【委員】夫婦でお二人とも認知症の方が通われているとのことだが、その場合の対応はどのようにしているのか。

【そ〜らの家】現在は施設に入所中。利用中には認知症の症状はあまり出ていなかったため、普通に接していた。

⑦きんもくせい

【委員】送迎が必要な利用者はいるか。

【きんもくせい】本来あってはならないが、雪の日などの天候が悪い日はスタッフが付き添うこともある。認知症の利用者のご家族に用事があるとき等も付き添うことがある。

【委員】オレンジカフェをやりたいと言いつけているができていない、という話を聞いたが、何かハードルのようなものがあるのか。また、脳トレのプログラムを始めたとのことだが、認知症予防のプログラムに行きついた経緯等はあるのか。

【きんもくせい】第2土曜に部屋を分けた形で行っている。また、小金井市の「アップツリー」という事業所でオレンジカフェを行っているが、人はあまり集まっていないと聞いた。しかし、地域の方からの提案や気軽に来られる場所が欲しいという声もあり、実施したいと考えている。

また、きんもくせいの利用者は、基本的に自立している人が多い。スペースが狭いので、脳トレも講座という形になってしまうが、来てくれる利用者が多いため、開催している。

【委員】目的がなく、ふらっと立ち寄る人がいると言っていたが、その後もその方は来ているのか。

【きんもくせい】2名くらいいるが、継続して来てはいるものの、ご自身で講座の曜日がわからなくなってきた。その方は自転車にも乗っており、家族もいるが、スタッフが見守りも行っている。

【委員】光熱水費補助金の効果はどうか。

【きんもくせい】人件費の分があるので、助かっているが、来年は消費税の関係もあり、懸念している。

⑧月見路

【委員】出張おもちゃ病院をやっているとのことだが、修理をしている方は経験者なのか。

【月見路】出張おもちゃ病院は全国的な組織として、おもちゃの修理を実施している。月見路は場所を提供している。

【委員】貸しスペースの広さはどのくらいか。また、どれくらいの団体に貸しているのか。

【月見路】定期的（3か月に1回）に視覚障害団体に貸し出している。広さは50㎡程。メインルームが空いているときに貸し出すことができる。サブルームについては、貸し出しをしておらず、立ち寄った方のために開けている。

【委員】独居の方に来てもらうためのきっかけづくりのアイデアがあれば教えていただきたい。

【月見路】「きんもくせい」の実施事業を参考にしており、「ひとり暮らし応援クラブ」というネーミングが浸透しやすかったと考えている。ひとりで暮らしている方にピンポイントで実施している。また、ニュースレターを全戸配布し、それを見ての問い合わせもあった。民生委員にも協力をいただいている。

【委員】シルバー人材センターとのつながりを今後広めていく可能性はあるのか。

【月見路】シルバー人材センターとのつながりは特になく、あまり広げられないが、様々なお手伝いをしていただく方を探す場合には、ボランティアセンター武蔵野にお願いをしている。囲碁もボランティアセンターの紹介。また、出張おもちゃ病院は、近所の方の紹介である。

(2)次年度事業計画採択協議

全団体について、異議なし。

【委員】高齢化が進んでいるので、今後介護に進む人を把握し、行政とつながる仕組みづくりをしていったほうがいいのではないかと。例えば、認知症の症状が出始めの状況のときに予防プログラムを組み込んで少し遅らせる等の対応が必要。

また、自宅との行き来が大変になってきている利用者が増えている一方、テンミリオンハウス事業のコンセプトは通える人を対象としている。ボランティアや顔見知りの人と一緒に帰ってもらう等のシステムを行政も一体となって検討したほうがよいのではないかと。

さらに介護認定は受けているが、介護保険のサービスを利用せず、テンミリオンハウスが受け皿になっているケースもある。事業開始から20年経った現在、それらをうまく整理できたら良いと思う。

【委員】事業が始まった当初は、介護保険の制度から漏れてしまった方をどう救おうかというところで、自力通所が可能な方というのが大前提になっていたが、20年経過すると自力通所できなくなる方もおり、うまく介護保険のサービスにつなぐこともあるけれども、今後ますます在宅介護・地域包括支援センターとの連携が必要になってくると思う。

地域の方々の見守りがあることは素晴らしいことであると改めて実感した。また、市としてもそのフォロー体制を整えていく必要があると感じた。

【委員】要介護や要支援という介護度は自己申告だけであって、調べることはしていないのか。

【委員】自己申告のみである。

【委員】利用者や施設によって、認知症の方がいたり、割と元気な方がいたりと対応が多様化している。市がその多様性をバックアップしたり、支えたりする仕組みづくりがあると良い。健康づくり等を絡めて、人的なネットワークを構築できれば良いと思う。

【委員】ある程度の自由度・裁量・柔軟性を担保するのがテンミリオンハウス事業の良さだと考えている。そういった点で、武蔵野市民社会福祉協議会に運営支援をお願いしている。一方で、運営の負担が大きくなってしまっただけでは自主的な活動がままならなくなってしまうので、市内6カ所の在宅介護・地域包括支援センターとの連携をさらに強めていく必要がある。財政的な支援についても、引き続き検討していきたい。

5 閉会

以上